

## 大分県杵築市・三光坊開拓

大分県杵築市は国東半島南部に位置し、温暖な気候の城下町。

三光坊開拓は市北部の丘陵地にある。初めに入植したのは満州開拓団から愛媛県に戻ってきた10名の開拓者たち。

満州から46年末に引き揚げてきて、愛媛に戻っていたが、48年にまず男だけ10名が入植してきた。全て人力で、一畝一畝耕してきた。家も自分たちで建て、翌年家族がやってきて本格的な開拓生活が始まった。

以前より、愛媛ではミカンが金になることが分かっていたが、苗木を買って成木まで4～5年待つという余裕が当初はなく、とにかく少しでも食べていける、すぐ金になる作物を選んできた。しかし、この丘陵地は強酸性土壌で、芋さえもなかなか芽が出ない、ダイコンもまっすぐ伸びないような土地だった。すぐに売れるスイカが唯一の武器だった。

初めのころはスイカや野菜を換金作物として、堆肥を取るために乳牛を飼ったり、グラジオラスなどの花の栽培を手掛けたりしたがそれほどうまくいかず、やはりミカン栽培は目標として常に考えていた。

数年で割り当てられた1haの8割を開墾し、50年頃からミカンの苗木を植え始めた。

当時の方は、「同年代の人が高校に通う道を、牛糞を拾って歩くのは本当に恥ずかしかった。53年に電気がようやくついてラジオを買った時と、57年にミカンが初成りした時の嬉しさだけは忘れられん」と話す。

58年10月に三光坊開拓農協が設立された。同年杵築市が「柑橘興市（柑橘で市を興す）」をスローガンに積極的にミカンの振興政策を講じた。

ミカンの先進県である愛媛から技術者を招いて、懸命に取り組み、一躍ミカンの先進地となっていった。

ミカン栽培に適していたこの土地に、愛媛県を始め多くの人々が移住してきた。68年にミカン価格が暴落して苦しんだが、75年頃からハウスミカンに重点を置いて取り組んだ。

この地はなだらかな丘陵が多く、ハウスを建てやすいこともあり、大きな成功を収めることができた。

写真の記念碑は、75年6月に建立され、ミカンの郷を見守っている。

## 大分県杵築市・三光坊開拓

- ①調査日 2018年9月10日
- ②所在 杵築市大内
- ③地区の沿革 国東半島南部、愛媛出身の満洲引揚者が丘陵地帯に入植。  
みかん栽培で成功。
- ④設置年月日 昭和50年6月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文(表面) 開拓 杵築市長 八坂 善一郎  
副碑(表面) 開拓史
- |          |                  |           |
|----------|------------------|-----------|
| 昭和31年    | 国県共同で地区買収実施      | 14●町歩     |
| 昭和32年4月  | 入植配分             | 同三光坊開拓●結成 |
| 昭和33年5月  | 農林省モデル開拓地        | ●定        |
| 昭和33年12月 | 農地開発機械公団で機械開墾    | 1,214万    |
| 昭和34年4月  | 住宅及び開拓道路完成       | 956万●262万 |
| 昭和34年7月  | 三光坊区誕生           | 電●道● 68万  |
| 昭和37年10月 | 飲用水施設完成          | 430万      |
| 昭和40年11月 | 入植地売渡登記完了        |           |
| 昭和41年11月 | 各戸電話導入           |           |
| 昭和47年5月  | 三光坊開拓農協は県開拓農協と合併 |           |
| 昭和47年8月  | 幹線道路アスファルト舗装完了   | 3482万     |
| 昭和48年6月  | 支線道路コンクリ         | ●●完了      |
| 昭和50年6月  | 開拓碑建立            |           |
- ⑧碑文(裏面) 無し 副碑裏 入植者名(約38名)
- ⑨現在の状況 地区公民館地内で管理されている。

